

平成22年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ニギス

学名 *Glossanodon semifasciatus*

系群名 太平洋系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命: 3歳

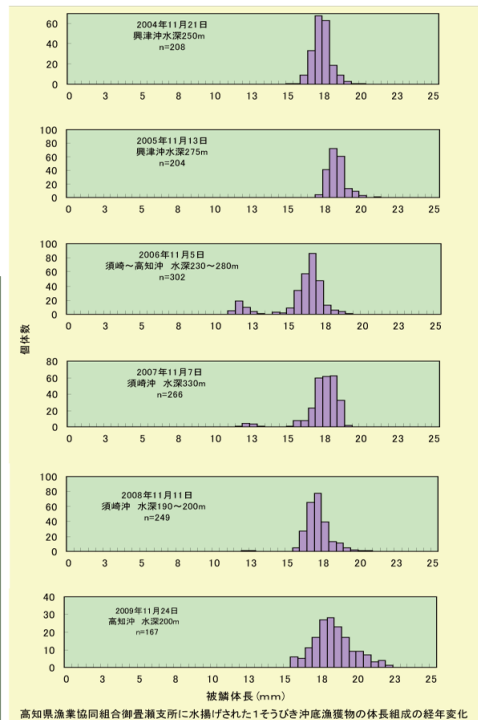
成熟開始年齢: 2歳

産卵期・産卵場: 主に春季(2～3月)、秋季(11～12月)にも産卵、水深200～300mの海底付近

索餌期・索餌場: 春～秋季(5～11月)、金華山以南～九州太平洋沿岸の水深100～350mの海域、成長に伴い沿岸からより沖合の生息域に移動

食性: 幼稚魚期は主にコペポダ、成長に伴いオキアミなどのより大型の浮遊性甲殻類

捕食者: 中・大型の底魚類



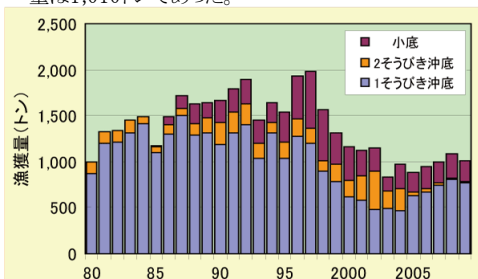
高知県漁業協同組合御豊瀬支所に水揚げされた1そうびき沖底漁獲物の体長組成の経年変化

漁業の特徴

漁場の中心は、伊豆半島以西～九州太平洋側の水深200～300mの海底付近で、主に1そうびき沖合底びき網(沖底)により漁獲される。金華山～房総沖の漁場については資料はないが漁獲量は少ない。その他、2そうびき沖底、愛知県外海小型底びき網(小底)によっても漁獲される。2そうびき沖底の着業隻数が大幅に減少したため、当該漁業種類による漁獲割合はわずかである。

漁獲の動向

漁獲量は1980年代後半から増加傾向となり1992年には1,892トンに達した。その後、やや減少したが1997年には1,997トンと過去30年間(1980～2009年)で最高の漁獲量となった。しかし、その後は減少に転じ、2003年には833トンと最も少ない漁獲量を記録した。2004年以降やや増加し、その後は中位、横ばい傾向となっている。2009年の漁獲量は1,010トンであった。

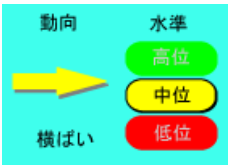
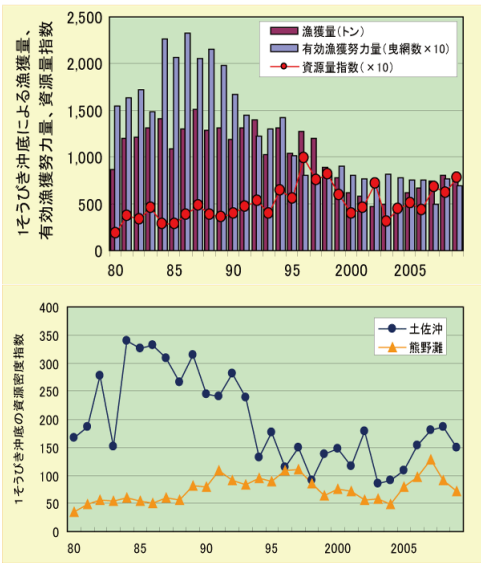


資源評価法

総漁獲量、本種を主要な漁獲対象とする1そうびき沖底の資源動向の指標及び調査船による幼稚魚調査の結果をもとに資源評価を行った。1そうびき沖底の主要な漁場である土佐沖と熊野灘での漁獲量、有効漁獲努力量、資源密度指数及び資源量指数の経年的変化傾向から資源の状態を評価した。両海域の資源密度指数の年変化率の平均値から動向を判断した。

資源状態

1997年から2002年頃にかけての漁獲量の急減は、資源量が低下したことと着業統数が減少したためと考えられ、近年では中位・横ばい傾向となっている。土佐沖の1そうびき沖底の資源密度指数は1980年代半ばをピークに減少傾向にあったが、2003年に過去最低となって以降、やや増加傾向にある。熊野灘における1そうびき沖底の資源密度指数も2005年以降やや増加傾向にある。過去5年間の両海域における資源密度指数の年変化率の傾向から見て中位・横ばい傾向にある。



管理方策

資源水準は中位・横ばい傾向にあることから、当面は現状の資源状態を維持することを管理目標とし、主要な1そうびき沖底の漁場である土佐沖・熊野灘の直近5年間の年変化率の平均値1.03を二乗した1.06を2009年の漁獲量に乗じて2011年のABClimitとした。これに安全率0.8を乗じてABCtargetとした。

	2011年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	1,100トン	1.06C2009	-	-
ABCtarget	900トン	0.8・1.06C2009	-	-

- ABCは100トン未満を四捨五入した値

資源評価のまとめ

- 1997年以降の総漁獲量は減少傾向が続いていたが、近年では中位・横ばい傾向
- 2009年の総漁獲量は1,010トンで、2008年の1,085トンを若干下回る程度
- 2そうびき沖底の稼働隻数が大幅に減少したことにより、本漁業種類の漁獲量が激減
- 資源の水準・動向は、中位・横ばい傾向

管理方策のまとめ

- 現状の資源を維持すること
- 資源予測については、調査船による幼稚魚の分布量指数等のデータを蓄積して、推定精度の向上を図る

執筆者: 梨田一也、阪地英男

資源評価は毎年更新されます。